

受付No.

2026年度 アートによる地域振興助成（研修助成）

*「研修助成」は当財団の助成を受けたことのある団体に所属する個人向けのものです。

公益財団法人 福武財団 理事長 福武英明殿

募集要項に則り、本応募用紙に記載した通り、標記助成に応募いたします。

<研修者の所属団体プロフィール>

団体名	紀南アートウィーク				
住所	〒646-0029 和歌山県田辺市東陽14 B-210				
団体区分	実行委員会	スタッフ数	4名		
代表者氏名(カナ)	ヤブモト ユウト	役職	実行委員長	年代	30代後半
代表者氏名	藪本 雄登				
団体URL1	https://kinan-art.jp/				
団体URL2	https://www.instagram.com/kinan_art_week/				

※助成に関する諸手続きの連絡担当者の情報を入力してください。研修を受ける人とは別に実務担当者がある場合はこちらに記入してください。

申請者氏名(カナ)	シモダ マナブ	役職	事務局長	年代	40代後半
申請者氏名	下田 学				
連絡先	e-mail info@kinan-art.jp	電話番号	090-3710-3866		
住所 (書類の送付先)	同上				

<研修者の略歴> ※専門教育や職歴、アートプロジェクト等の運営経験や当時の役割を記載してください。

氏名(カナ)	オガワ ミサキ	役職/肩書	広報担当	年代	30代後半
氏名	小川 実咲				
年(西暦) 月	略歴				
2011年3月	地元・和歌山県立神島高校卒業				
2013年3月	駿台観光&外語専門学校卒業				
2013年11月	株式会社森ビルホスピタリティコーポレーション アンダーズ東京、ウェディングプランナーに従事				
2022年10月	レッドホースコーポレーション株式会社に転職、社内コンサルティングに従事				
2023年10月	紀南アートウィークに合流 主に広報(HPやSNSの更新)と運営を担当				
2024年9月	『いごくたまる、またいごく』展 主に広報(HPやSNSの更新)と運営を担当				
2025年10月	コモンズ農園PJ 主に広報(HPやSNSの更新)と運営を担当				

<福武財団の助成実績>

助成を受けて活動した年度
2022年度, 2024年度, 2025年度

<その他の研修対象者>

氏名	年代	所属団体での役割	研修で予定している学びの内容
山本 玲子	40代前半	みかんコレクティブPJ、コモンズ農園PJ等、農関連のプロジェクトを担当	研修では、主に農園整備や農的プロジェクトを担当しているスタッフに、地域連携や企画立案の領域にも視野を広げてもらい、幅広い知見と実践的な知識を身につけることを目的とする。地域の多様な主体との協働や、持続可能な企画づくりの先行事例を学ぶことで、農的領域にとどまらず地域全体を見渡す視点を培い、研修後は得た知見を既存事業へ生かすとともに、新たな連携企画の構想につなげ、地域に根ざしたプロジェクトのさらなる充実を担ってもらう。

< 研修の目的と意義 >

1. 研修の目的と意義

<p>あなたが関わるプロジェクトの概要とゴールイメージ</p>	<p>紀南アートウィークは、和歌山県南部・熊野エリアを舞台に、アートを媒介として地域の自然・文化・人をつなぐプロジェクトである。2021年の初開催以降、地域の潜在的な文化資源を発掘しながら多様なアーティストと連携してきたが、持続的な運営体制の構築、特に収益と人材の確保が今後の課題である。 現在は「アートによる地域創造」を超え、地域経済や暮らしに根ざした「事業化」の仕組みづくりを模索しており、今回の研修では、都市部でなく地方でアートを含む複合的な地域事業（宿泊・農地活用・ショップ運営、企画制作等）を展開する先行事例を学ぶことで、経営・雇用・ファンドレイジングの基盤構築を目指す。研修の成果をもとに、紀南地域における持続可能な事業の創出とアート・プラットフォームの形成を図る。</p>
<p>現状分析と課題設定（今回の申請に至った経緯や背景、自身のプロジェクトの定量・定性的な評価に基づいた課題意識）</p>	<p>活動は時に地域外からも注目を集め、展覧会には数百～数千人が来場するなどの成果を上げてきたが、運営を担う中核メンバーはそれぞれ本業を抱える3名で構成され、継続的に関与できる人材や収益基盤が脆弱である。展覧会制作の委託等で多少の収入はあるものの、まだ安定した財務構造には至っていない。まずは地域に在り得る人材確保のため、助成金や寄付に依存しない事業的収益モデルの構築が急務である。なお地方においては自発的に事業化や企画立案を行える人材が圧倒的に不足しているため、長期的な教育・研修の実施や他地域からの人材獲得も必要になると考えられる。 地域においては現代アートを切り口とした活動に期待されているため、今後は地域住民との協働や民間連携の枠組みを整理し、経済・文化活動を横断的に展開できるビジョンと体制づくりが必要とされる。これらを踏まえ、他地域での先進事例から具体的な仕組みを学ぶことが今回の背景である。</p>
<p>課題を受けての大方針（課題解決の方向性）、研修助成で学びたいこと</p>	<p>持続的なアートプロジェクトへと進化させるため、「経営」と「運営」を分離せず一体で捉える体制を築くことを大方針とする。研修先としては、多角的な事業化やそこに根差すコミュニティ作りを展開する団体（例：BEPPU PROJECT、ミナガルテン等）や、地域資源・地域課題を活かしながら経済的自立を果たしている団体（例：瀬戸内ジャムズガーデン、尾道空き家再生PJ等）などを想定。これらを訪問し、①事業化の設計（資金循環・雇用創出・福利厚生）、②地域との連携構築、③民間企業との協働モデル、④顧客の創出やプロモーション手法、を重点的に学びたい。 また、現代アートを通じた活動を地方社会の重要な一要素として位置づけ、地域産業や教育、観光、暮らしと結びつく実践的な経営モデルを研究することで、今後の紀南アートウィークの運営体制の方向性を具体化していく。</p>

2. プロジェクトの中長期計画

今回の研修を経て、プロジェクトが目指すゴールイメージへのステップを「活動内容」にお書きください。（現時点の状況で構いません）

年（西暦） 月	活動内容
2026年12月	他地域事例の調査・研修、地域内関係者との共有会の実施
2026年12月	アートホテルを軸としたアート・プラットフォーム構想の事業計画書策定、具体的な物件探し、融資の検討、人材探し
2027年12月	法人化・雇用体制の確立、民間連携による持続的運営基盤の構築
2028年12月	紀南地域におけるアート・文化を核とした地域ベンチャープラットフォームの形成、発展

3. この研修により、あなたが関わるプロジェクトにどのような効果もたらされますか？

達成したい目標を、定性（状態的な目標）、定量（数値の目標）の観点を含めてお書きください。

<p>本研修は、紀南アートウィークの運営体制を「イベント型」から「事業型」へ転換させ、地域ベンチャー的なプラットフォームへと発展させるための、事業化・組織化の具体的な方向性を得ることを目的として行います。 【定性的な目標（状態的な目標）】 ①他地域の事例を参考にしつつ、何より地域の実情に根ざした経済循環を意識した運営モデルの構築 ②専従スタッフを中心とした持続可能な仕組み（予算配分、福利厚生など）を持つ組織運営 ③アートを地域事業と接続する新たな価値提案 という3つの変化を目指す。 また、上記を実現することで中核メンバーがより中長期的な戦略立案に取り組める環境を作り、さらなる雇用創出の循環に取り組む。 【定量的な目標（数値の目標）】 ①雇用の創出：2026年度中に、紀南地域内で常勤スタッフを1名以上雇用する。 ②事業収入の確立：2027年度末までに、現在の企画制作と自主事業（アートホテルの運営）を合わせた年間収入目標を1,000万円とし、スタッフ人件費の捻出と立ち上げ時の債務返済を行えるようにする。収入比率は企画制作2~3割：事業収益7~8割。</p>
